

|||||  
 卷 頭 言  
 |||||

15周年記念事業と会誌「表面科学」



岩 澤 康 裕

「表面科学」の編集委員長を終わり、唯々編集委員の皆様に感謝の念を抱かずにはおれません。日本表面科学会には、分に過ぎた機関誌「表面科学」が存在すると揶揄するむきもあります。「表面科学」のおかげで会員が増えたり、少なくとも日本表面科学会を注目することが増えているとも聞きます。しかし、何もそのような話を信じて甘えてきたわけでも奢ったこともまったくなく、編集委員会では委員のもてる知恵と情熱と人脈をフル回転させ努力してきた結果であり、それが評価されることは喜ばしい限りです。

ただ、「表面科学」の編集にはさまざまな問題と課題があったことも事実です。たとえば、好ましいことはわかっていたのですが、経費上の問題と編集体制の問題などのためこれまで実現されなかった「表面科学」のマンスリー化の懸案事項がありました。ご承知のごとく日本表面科学会の15周年記念企画の一貫として、1995年の1月号(No.1)からマンスリー発行が開始されたわけです。また、表面の色とデザインを一新いたしました。さらにフロッピー投稿の試行も始めております。これらの実現には編集委員各自のボランティア精神以上の時間を費やす献身的な努力によったものと肌で感じております。これらを通していえることは、編集委員に優れた人材を確保できるかどうか、「表面科学」の質的水準を維持し、学会の一つの代表的顔として学会を支える基になるものと思われま。また、編集委員会の知的な活動なくしては学会の発展もないものと思われま。しかし一方で、会誌出版事業は経費がかかることも事実であり、会員からの貴重な会費を使用するわけですから、会員が満足し納得できる内容と企画を生みだし続ける責務もあります。その意味で会員からの要望に応えた企画が来年からスタートいたします。先端的・先進的解説記事を実験的にフォローするための、また疑問に答えるための「実験“ノウハウ”」(実験ノート)が登場することになります。具体的には新編集委員会で練ってくださっておりますのでそれを期待したいと思います。

学会の15周年事業の締めくくりとして、1996年11月下旬に表面科学国際シンポジウムが開催されます。組織委員会が結成され準備が開始されております。微力ながら組織委員長として全力を傾注する所存ですので、皆様方のご協力とご援助をお願い申し上げます。

(東京大学大学院理学系研究科)